

2017年12月期 第1四半期決算説明会

新浜松IM事業所
(2月28日開所)



ヤマハ発動機株式会社
2017年5月12日
(証券コード:7272)

本日も説明する内容

2017年12月期 第1四半期決算

取締役 日高 祥博

● 業績予想について

この説明資料内で述べられているヤマハ発動機株式会社の業績予想は、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したもので、リスクや不確実性を含んでいます。実際の業績は、様々な要因の変化により大きく異なることがありえますことをご承知おき下さい。実際の業績に影響を及ぼす可能性がある要因には、主要市場における経済状況及び製品需要の変動、為替相場の変動等が含まれます。

経営業績：2017年（1Q）

- 1Q： 先進国・新興国において、着実な収益性改善が進む。
- 2Q以降：ブランド個性を発揮する新商品の市場投入を進め、各市場でプレゼンスを高める。

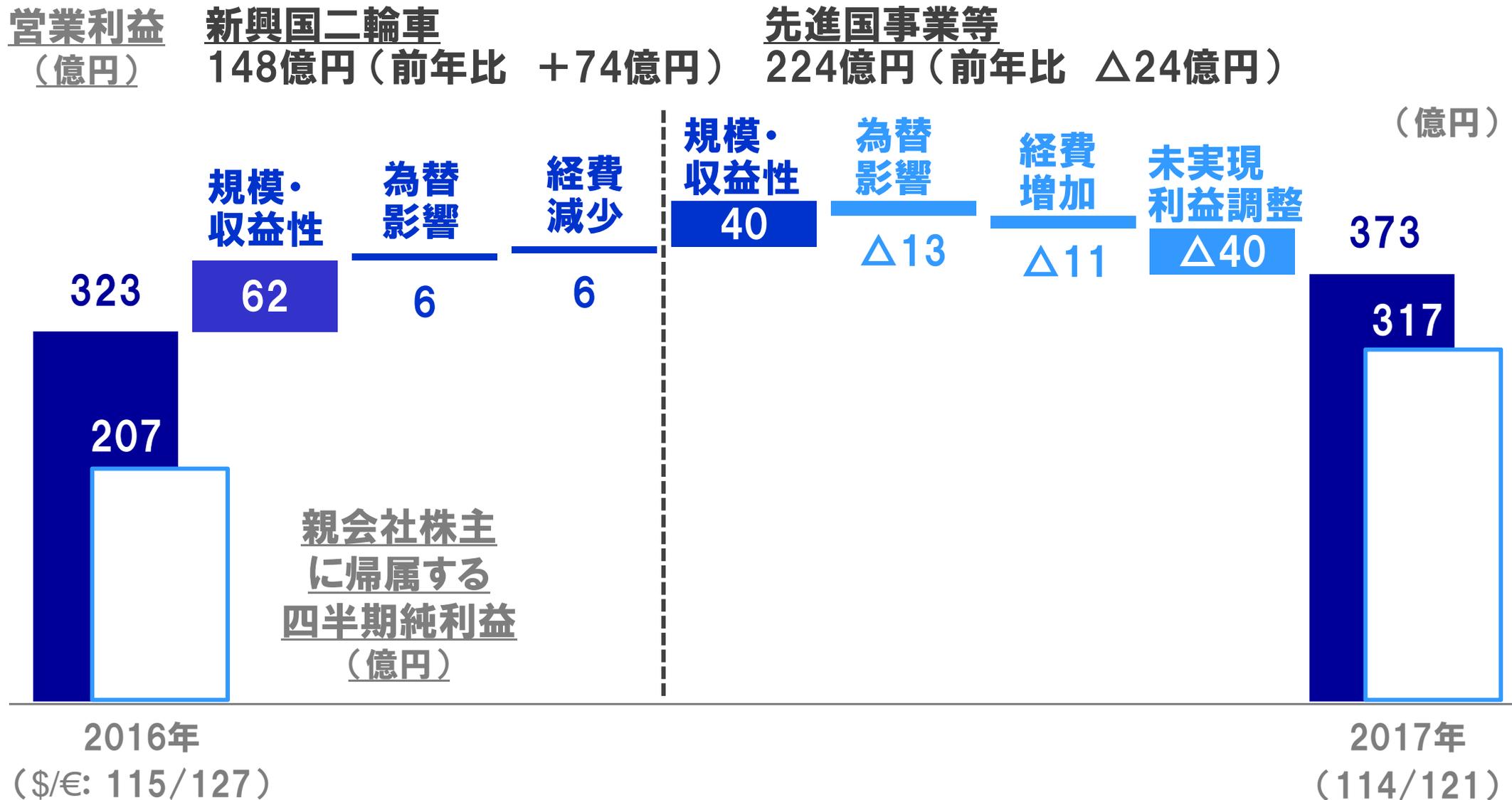
（億円）	2016年 1Q	2017年 1Q	前年比
売上高	3,829	3,860	101%
営業利益	323	373	116%
営業利益率	8.4%	9.7%	+1.2pts.
経常利益	281	408	145%
当期純利益※	207	317	153%
（\$・€）	115・127	114・121	—
（\$/IDR・BR\$）	13,475・3.9	13,287・3.1	—

年間予想	前年比
16,000	106%
1,200	111%
7.5%	+0.3pts.
1,200	118%
750	119%
110・115	—
13,200・3.2	—

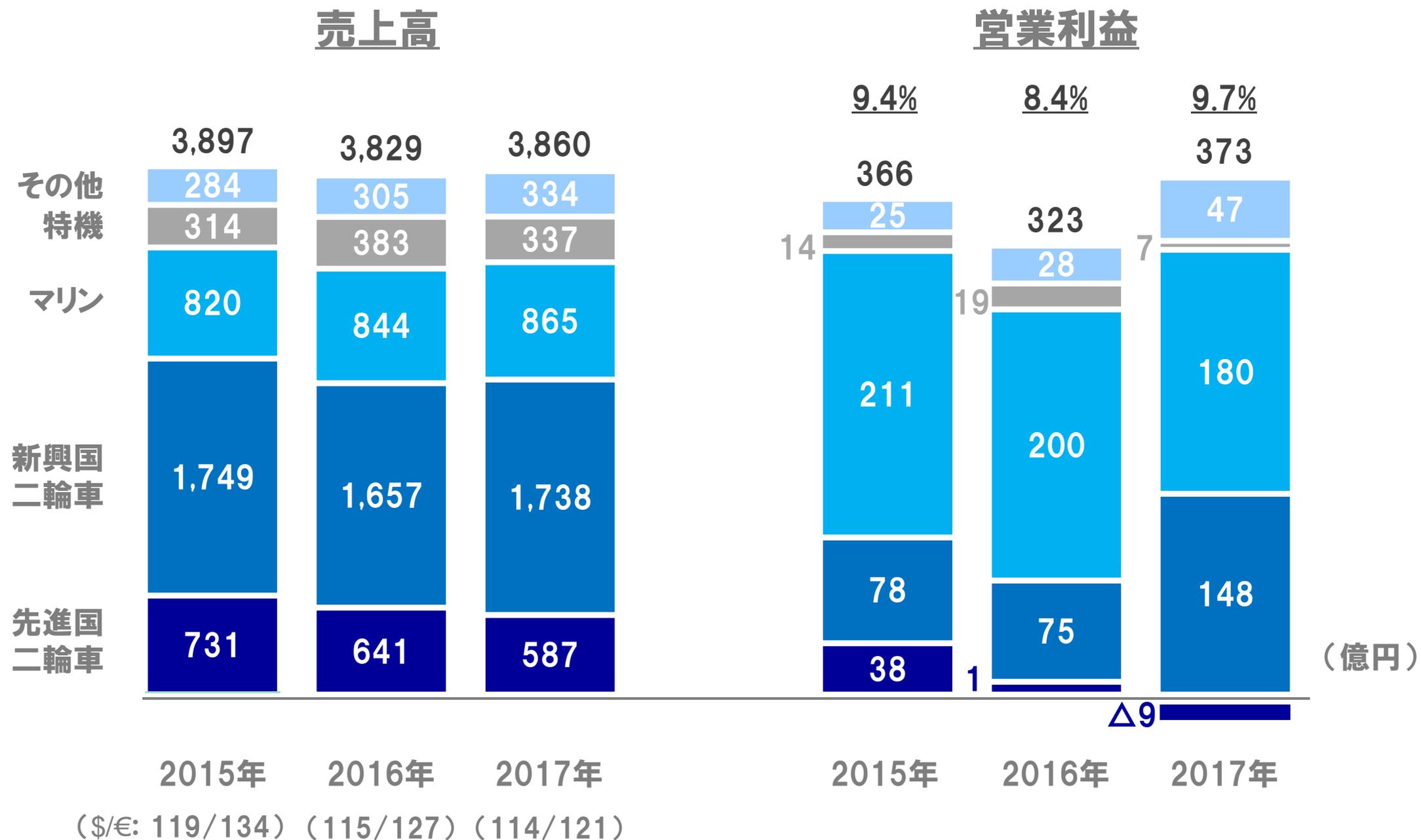
※ 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益

経営業績：営業利益変動要因（1Q）

- 新興国：高価格商品・コストダウン・構造改革による収益性改善続く。
- 先進国：マリン・IM・PAS、収益性改善進む。
但し、円高・未実現利益等の一時的影響残る。



経営業績：事業別売上高・営業利益（1Q）

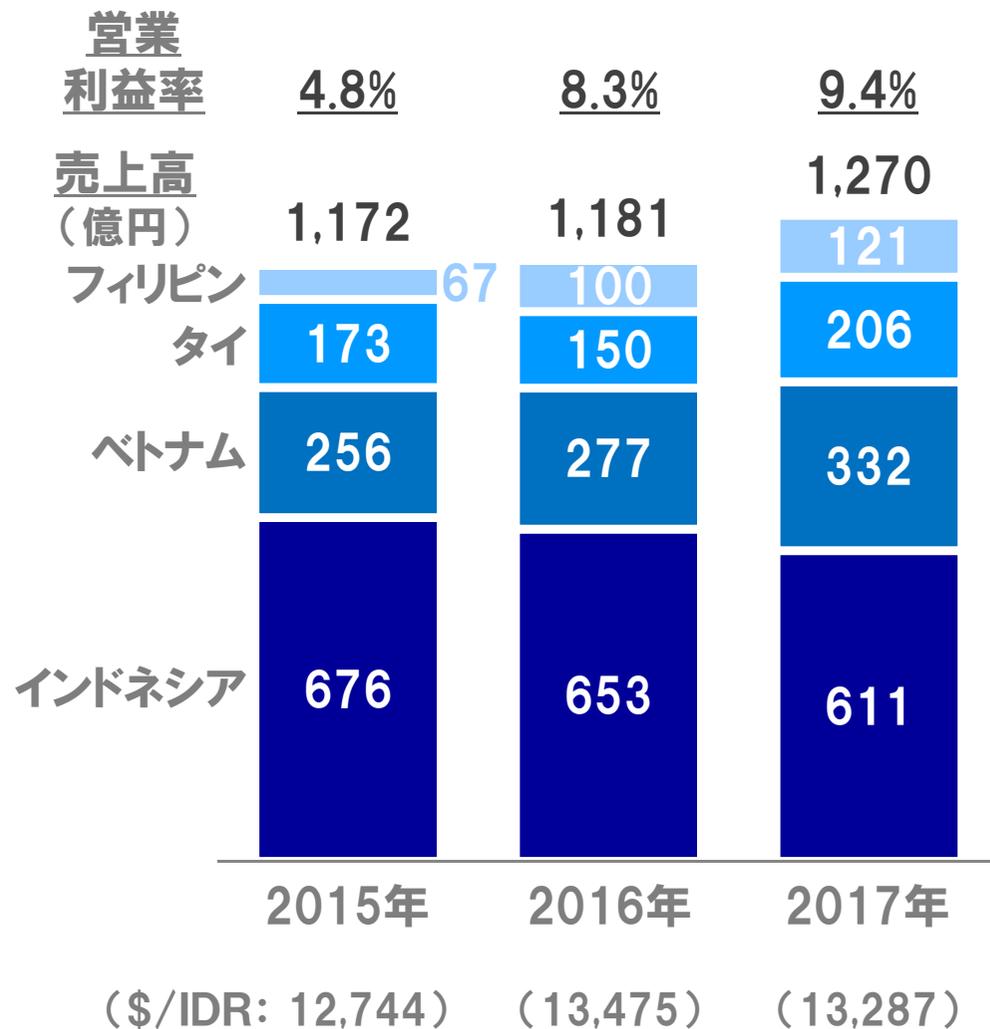


その他：産業用機械・ロボット含む

事業業績：2017年（1Q）

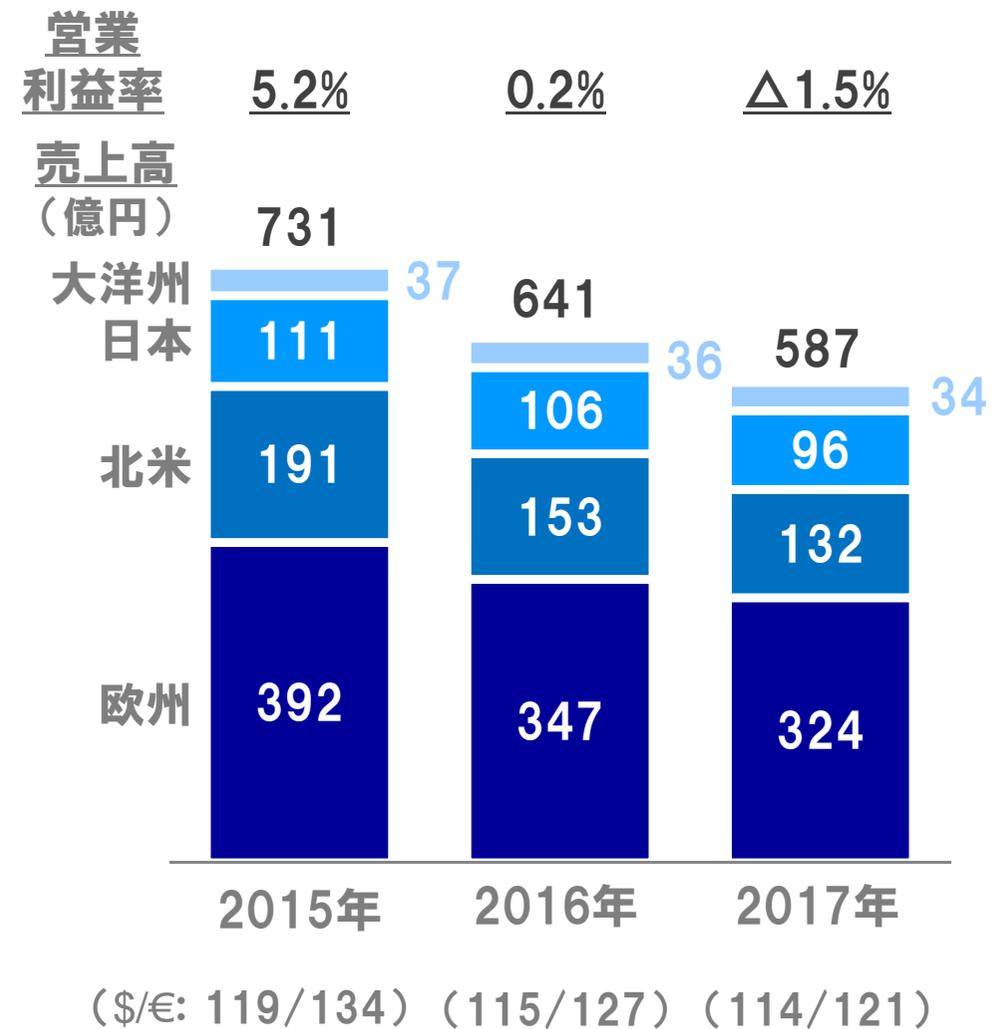
アセアン二輪車

着実に、営業利益率10%水準へ。



先進国二輪車

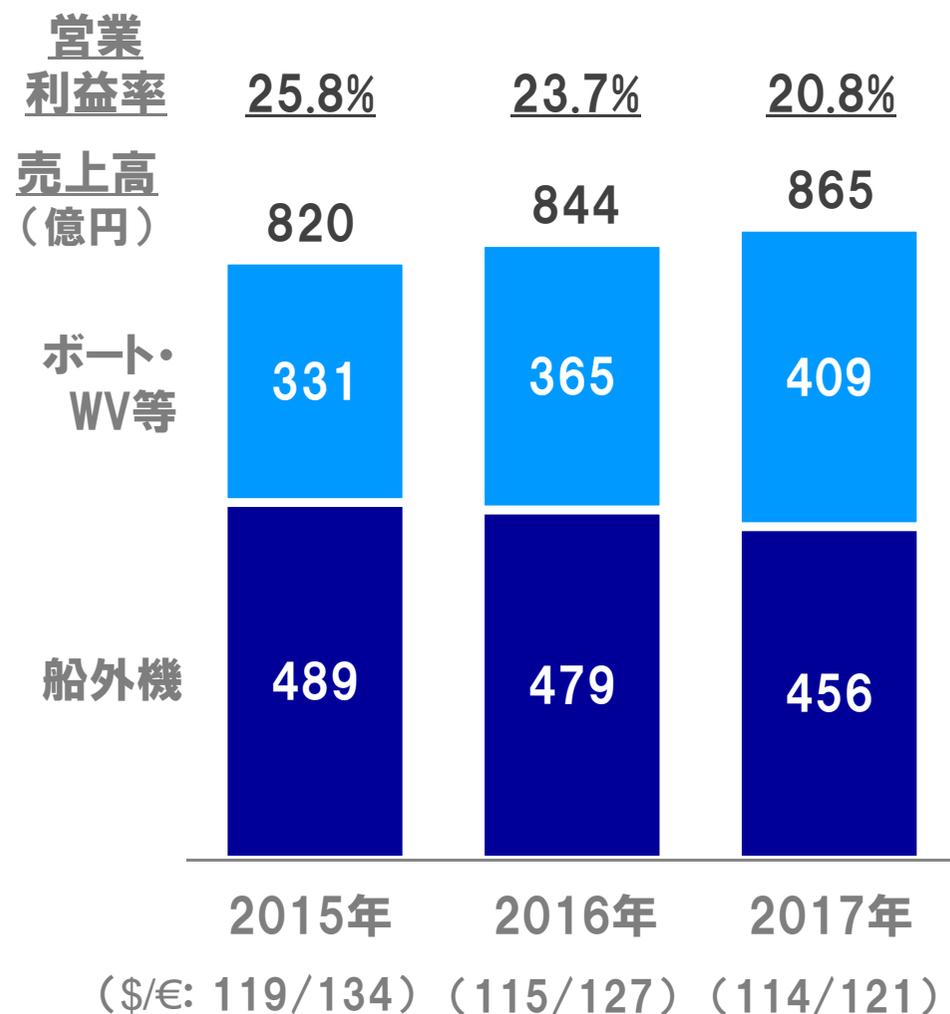
商品ミックス等で収益性改善進むが、円高・新商品導入時期ずれの影響残る。



事業業績：2017年（1Q）

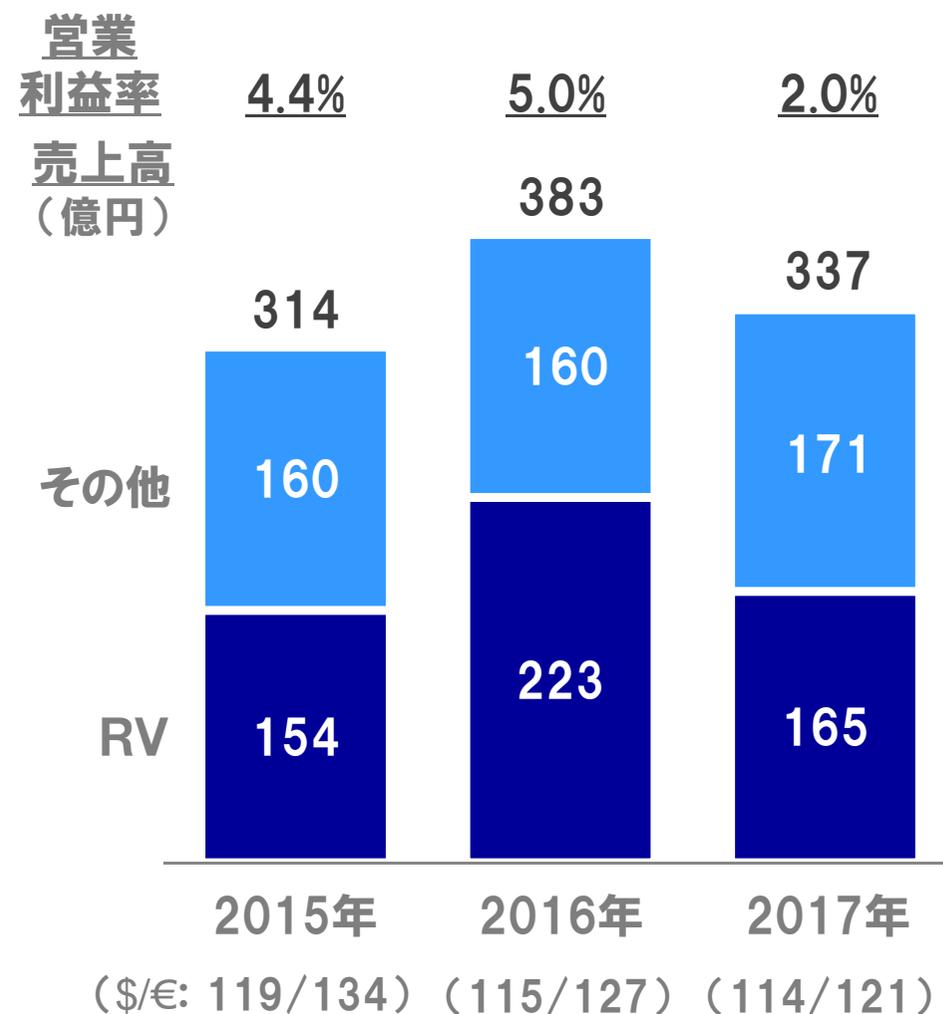
マリン

大型化による収益性改善進むが、円高・未実現利益の影響残る。



特機

ROV、計画通りに在庫正常化進む。下期に向けて新商品導入に備える。





YAMAHA

Revs Your Heart

事業別 売上高・営業利益（1Q）

売上高（億円）

	1Q		対前年
	16年実績	17年実績	
二輪車	2,298	2,325	27
マリン	844	865	21
特機	383	337	△46
その他	305	334	29
合計	3,829	3,860	31

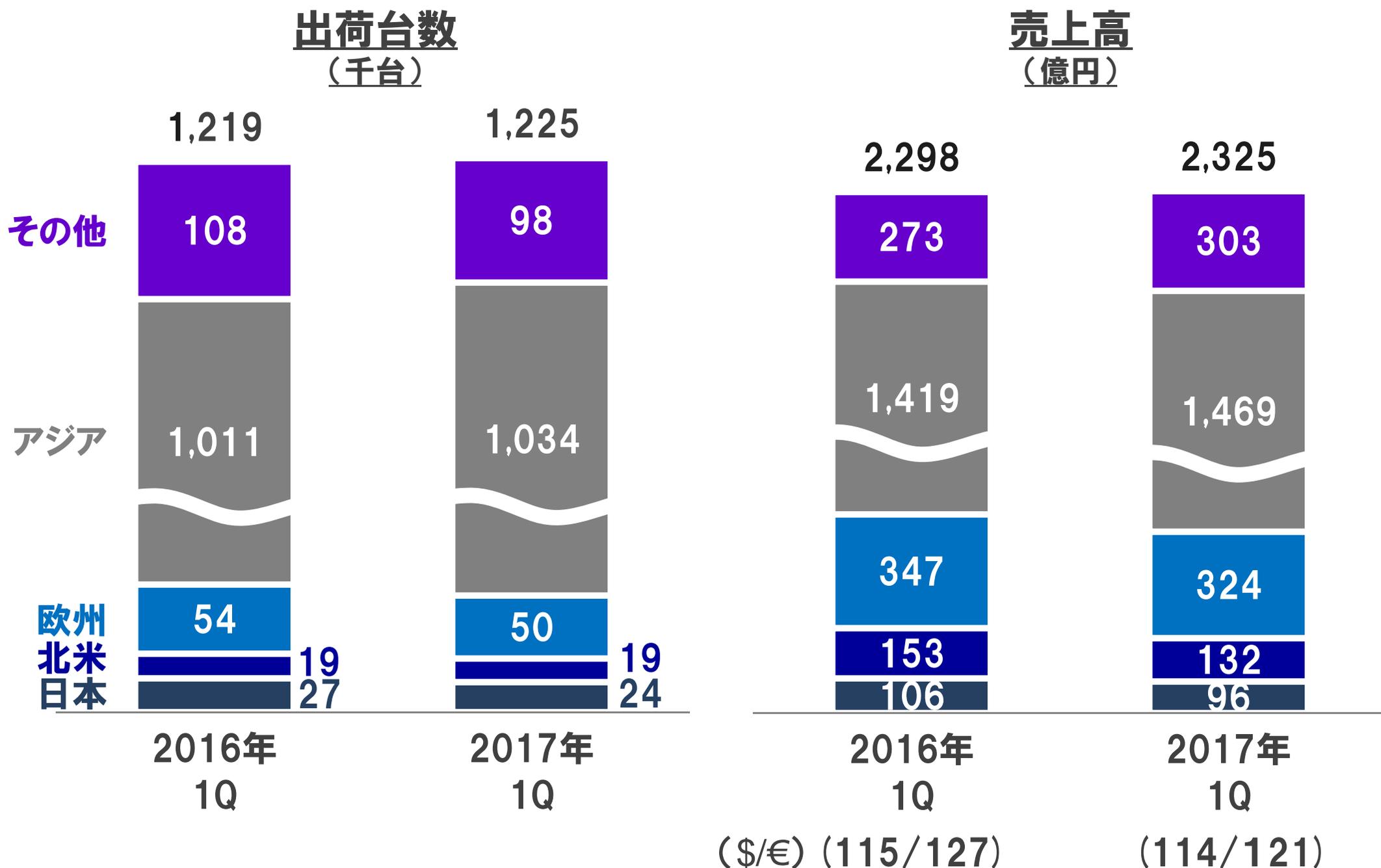
営業利益（億円）

二輪車	76	139	64
マリン	200	180	△20
特機	19	7	△12
その他	28	47	19
合計	323	373	50

営業利益率（％）

二輪車	3.3	6.0	2.7
マリン	23.7	20.8	△2.9
特機	5.0	2.0	△3.0
その他	9.1	13.9	4.8
合計	8.4	9.7	1.2

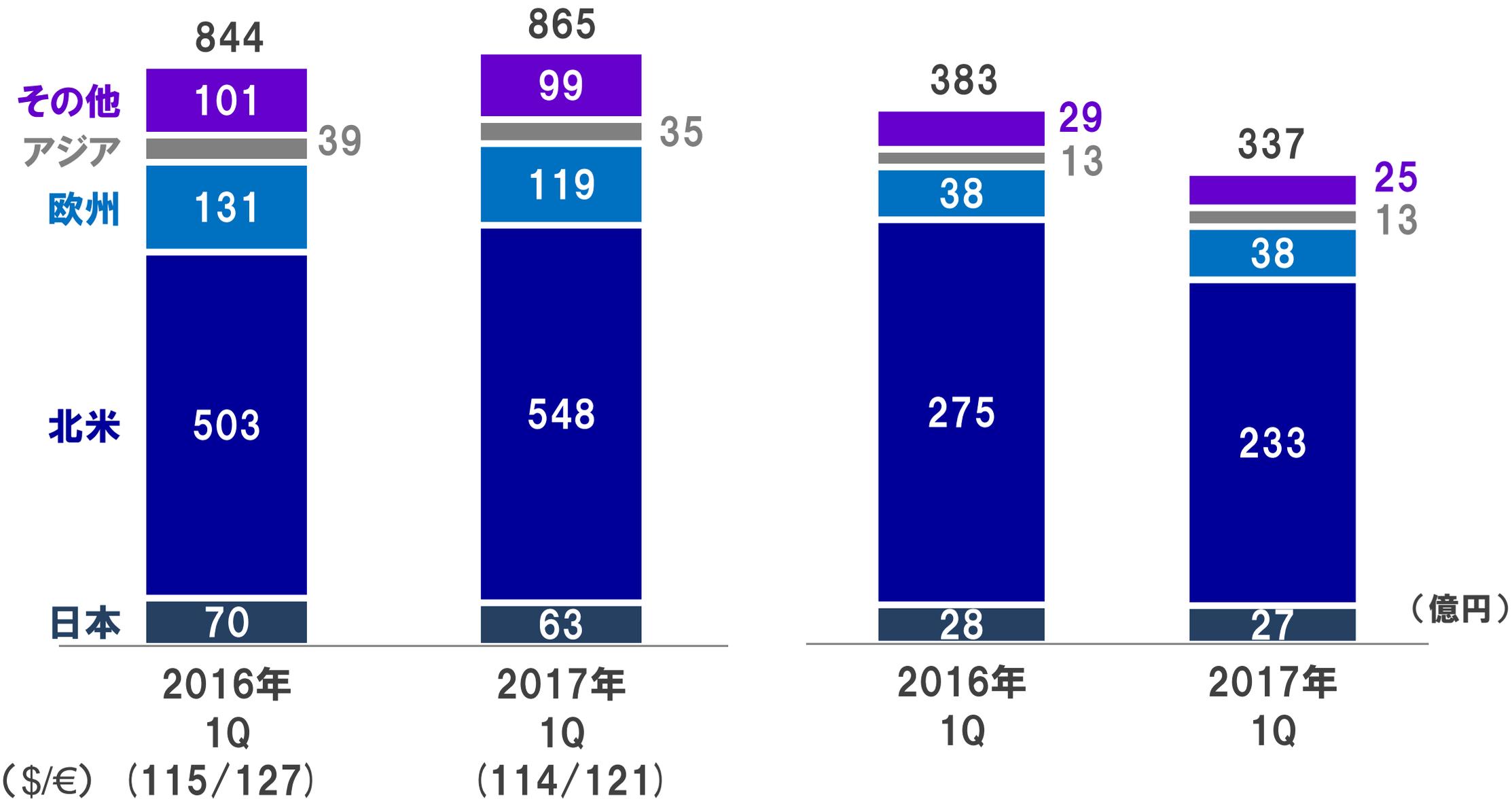
二輪車販売台数・売上高（1Q）



マリン、特機 売上高 (1Q)

マリン

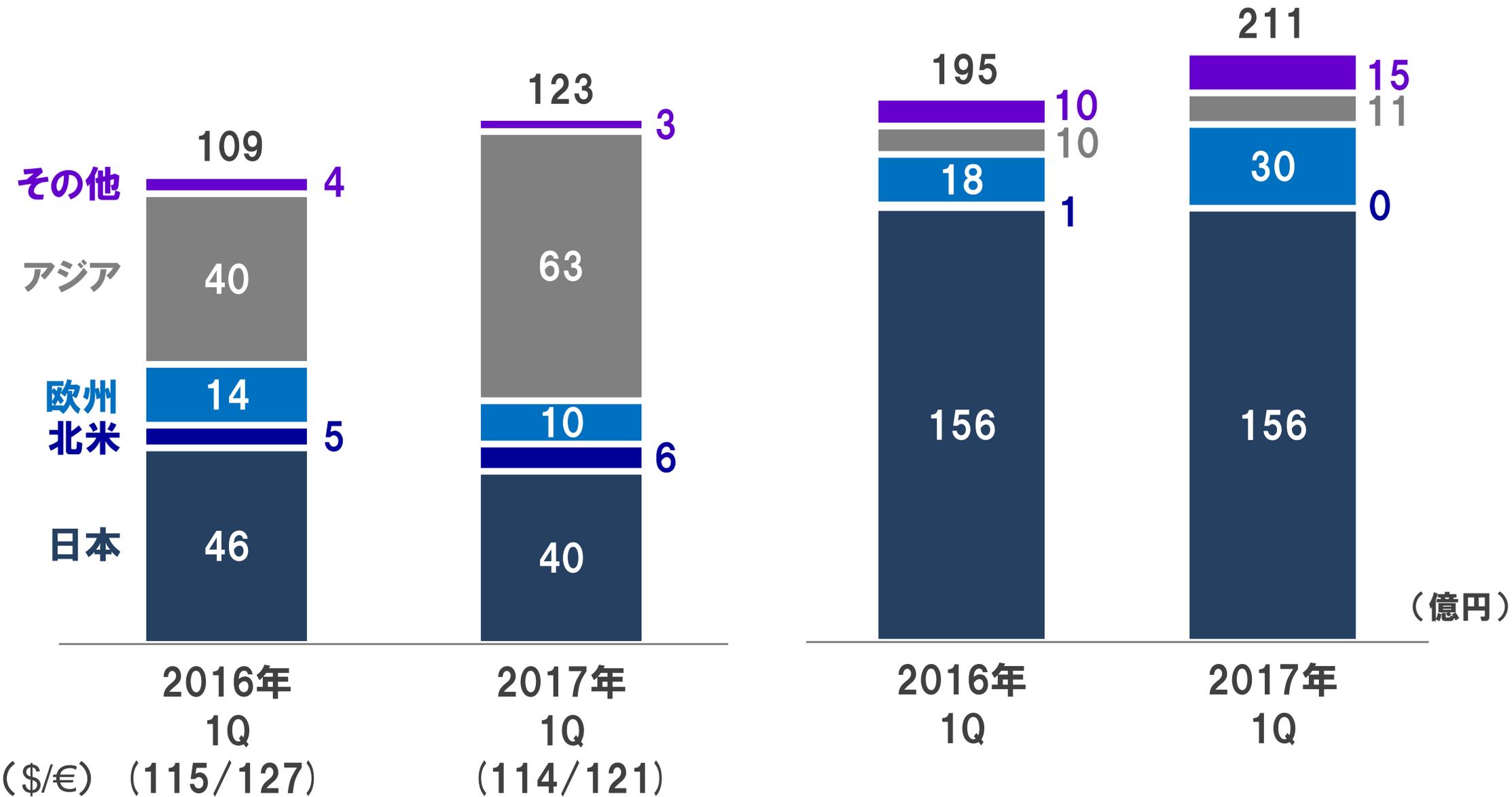
特機



産業用機械・ロボット、その他 売上高（1Q）

産業用機械・ロボット

その他



為替影響（対前年）

	1Q（3ヶ月）			
	US\$	EURO	その他	合計
本社の輸出入にかかる為替影響	△5	△13	6	△12
為替による仕入影響（海外子会社）	0	0	6	6
粗利益の換算影響（海外子会社）	△2	△5	4	△3
販管費の換算影響（海外子会社）	2	4	△4	1
営業利益への為替影響	△5	△14	11	△7

為替感応度

1円の変動が営業利益
に与える影響額

US\$	EURO
4億円	2億円

設備投資・減価償却費・研究開発費・有利子負債

(億円)

	16年1Q 実績	17年1Q 実績
設備投資	110	94
減価償却費	108	108
研究開発費	224 ※	228
有利子負債	4,284	3,859
(うち販売金融分)	2,252	2,324

※ 2016年1Qは、研究開発費に成長戦略費用(12億円)は含まず

営業利益変動要因（1Q）

